

2. 時制と態

前回に引き続いて「一致」の問題を取り上げよう。今回は、時制の一致と能動態、受動態の説明をする。文章中の時間の流れや、文中の要素間の関係の把握に必須の文法項目。しっかりマスターしよう。

Handout 1

Q: 次の文章を読み、空所①と②に適切な語形をA～Cから選んでみよう。 【訳▶p.47】

Causes of Crime

There is a wide variety of ideas as to the causes of crime. One theory assumes that an individual chooses criminal conduct of his or her own free will, and ① _____ therefore responsible for his or her actions. Other theories portray the criminal more or less as a helpless individual in the grasp of biological, psychological, or social forces beyond his or her reason or control. Modern studies of crime often rely heavily on statistics. For example, burglary and assault are strongly ② _____ with the poor areas of large cities.

① A is B will be C was

② A associating B to associate C associated

Notes assume: ~だと決めてかかる free will: 自由意思 portray A as B: AをBであるとありありと描写する in the grasp of ~: ~の支配下で rely on ~: ~を当てにする statistics: 統計 burglary: 住居侵入 assault: 暴行

Handout 1 の解法とポイント

「犯罪行為の原因とは何か」について書かれた文章。①は直前にある等位接続詞andに注目する。下線に入るbe動詞はassumesに続くthat節内の主語an individualに対応する述語動詞としてchoosesと同格で結ばれているので、時制を一致させるためAのisを選ぶ。次に②は、主語burglary and assaultの直後のbe動詞areに注目する。associate A with Bが「AとBを結びつけて考える」という意味なので、be associated with ~という形で受動態になると見当がつく。したがって正解はCのassociatedとなる。

TOEFL ITP 頻出文法チェック

「時制と態」の出題パターン

「時制」では、時制の基本的用法のほかに時制の一致とその例外、現在進行形にならない動詞に関する問題に注意を要する。特にTOEFLテストでは、andで結ばれたふたつの動詞の時制を一致させる問題が頻繁に出題されるので慣れておこう。

「受動態」はbe + 過去分詞という、「基本中の基本」とでもいうべきパターンを問う設問が多いのでよく復習しておこう。

一般的事実や真理を表す現在形

1. Glaciers _____ about seventy-five percent of the world's fresh water.
- (A) contain
(B) have contained
(C) were containing
(D) contain them

問題文は「氷河は地球上の淡水の約75パーセントを含んでいる」という「一般的事実」を述べているので現在形を選ぶ。したがって(A)のcontainが正解となる。なお、この一般的事実や真理を表す現在形が従属節で用いられたときには、主節の動詞が過去形でも時制は一致させないので注意すること。